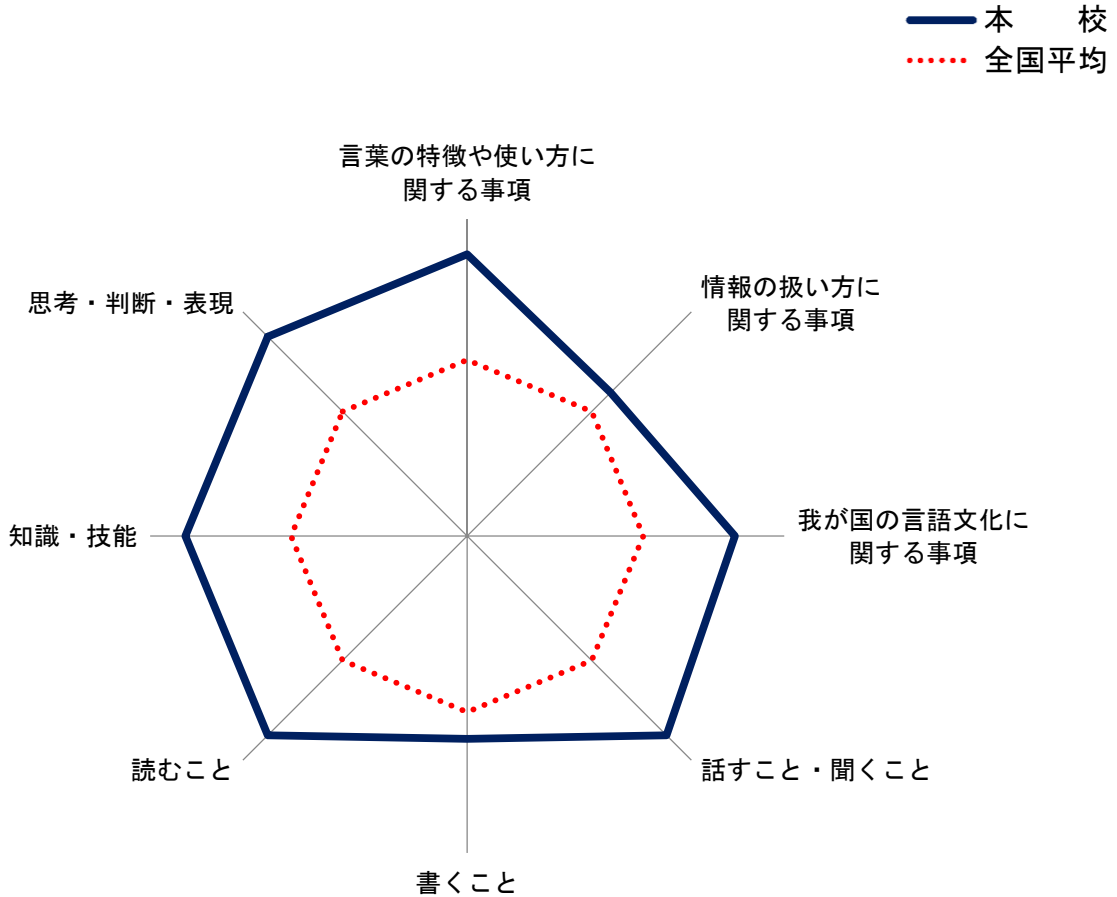


○ 国語に関する調査 (全国の平均正答率との差)

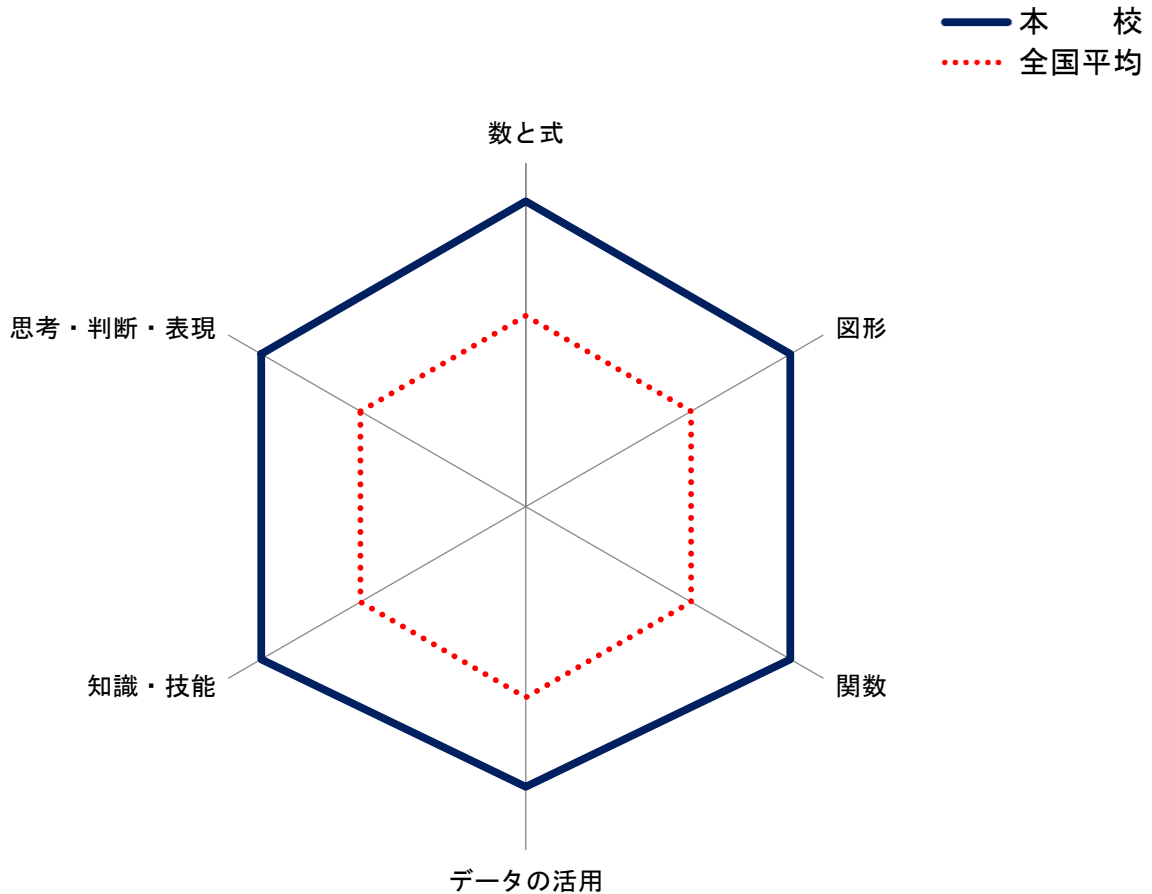


【結果の分析と改善策】

本校の平均正答率は85%と、全国平均や愛媛県平均 (ともに69%) を大きく上回り、良好な結果となっています。まず、本校の特徴としては、記述式の問題において無回答率が1.3%から2.6% (全国平均9.0%から16.2%) と低いことが挙げられます。「話すこと・聞くこと」は86.1%、「読むこと」は87.3%と高い正答率でしたが、「書くこと」については、50.3%と、低い結果でした。1年次から分散登校や、制約の多い環境での授業を受けていることもあり、要点をまとめて相手に伝える活動が困難になっていることも要因であると考えます。「読むこと」によって得た知識を使って「話すこと」や「書くこと」の力を身に付けられるような授業実践を行いたいと思います。

問題別に分類すると、「書くこと」の領域の、2三「農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える」の正答率が50.3%と、本校の正答率の中では最も低く、愛媛県平均 (46.8%) との差もわずかとなっています。この問題は、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことを趣旨とした記述式の問いでした。この力は、「思考・判断・表現」の能力であり、本校としては最も力を伸ばさなければならない分野の一つだと考えます。また、4一「行書の特徴を理解する」の正答率は54.9% (全国平均39.4%) と、こちらも課題の残る結果となりました。この問題は、「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」ことを趣旨とした問いでした。書写の授業を通して習得した技術を日常で役立てられるように、授業の中で指導を強化していきたいと考えています。

○ 数学に関する調査 (全国の平均正答率との差)

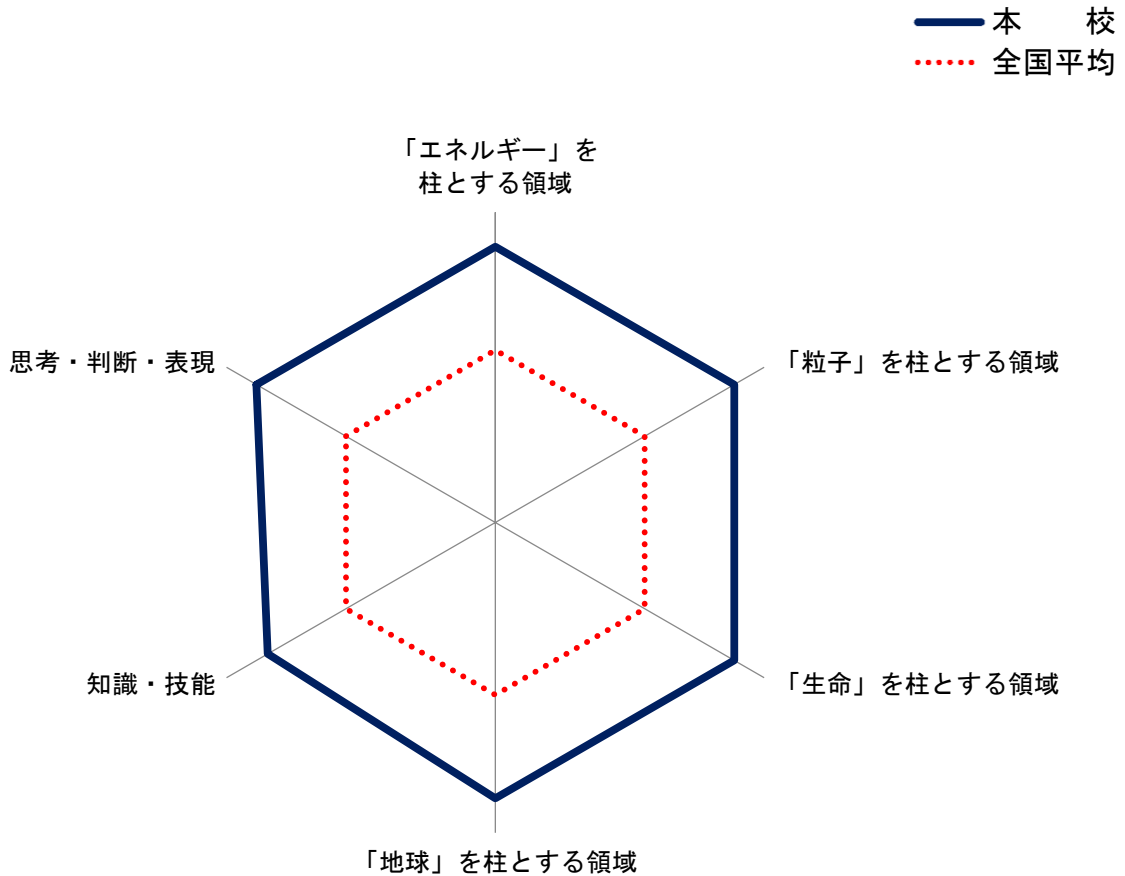


【結果の分析と改善策】

本校の成績を全国及び愛媛県全体の平均と比較をすると、領域別では、「数と式」において33ポイント、「図形」において27ポイント、「関数」において28ポイント、「データの活用」において11ポイント高い結果となっています。評価の観点においても、「知識・技能」において24ポイント、昨年度「数学的な見方や考え方」から引き継がれた「思考・判断・表現」において29ポイント高い成績となっています。

本校で地道に継続して取り組んでいる「日々の課題」や「週末課題」が着実な学力の向上につながっていることがうかがえます。また、整数の証明に至っては正解率が全国平均より40ポイント以上高くなっており、数学的な文章の書き方についても理解度が上がってきていると感じています。課題としては、新しく中学生段階で学習することになった「データの活用」および「分析」の領域において、全国平均と比較すると習熟度が他の領域ほど高くないことが挙げられます。ICTを活用したり、日常に活用されているデータを授業で扱ったりしながら、さらなる向上を図っていきたいと考えています。また、従来の「知識・技能」の問いを経て、「思考・判断・表現」を見る出題形式が変更され、その対応が十分できていなかったと感じています。「知識・技能」を用いて課題を解決していく問いや授業展開を通して応用力を高めていきたいと考えています。

○ 理科に関する調査 (全国の平均正答率との差)



【結果の分析と改善策】

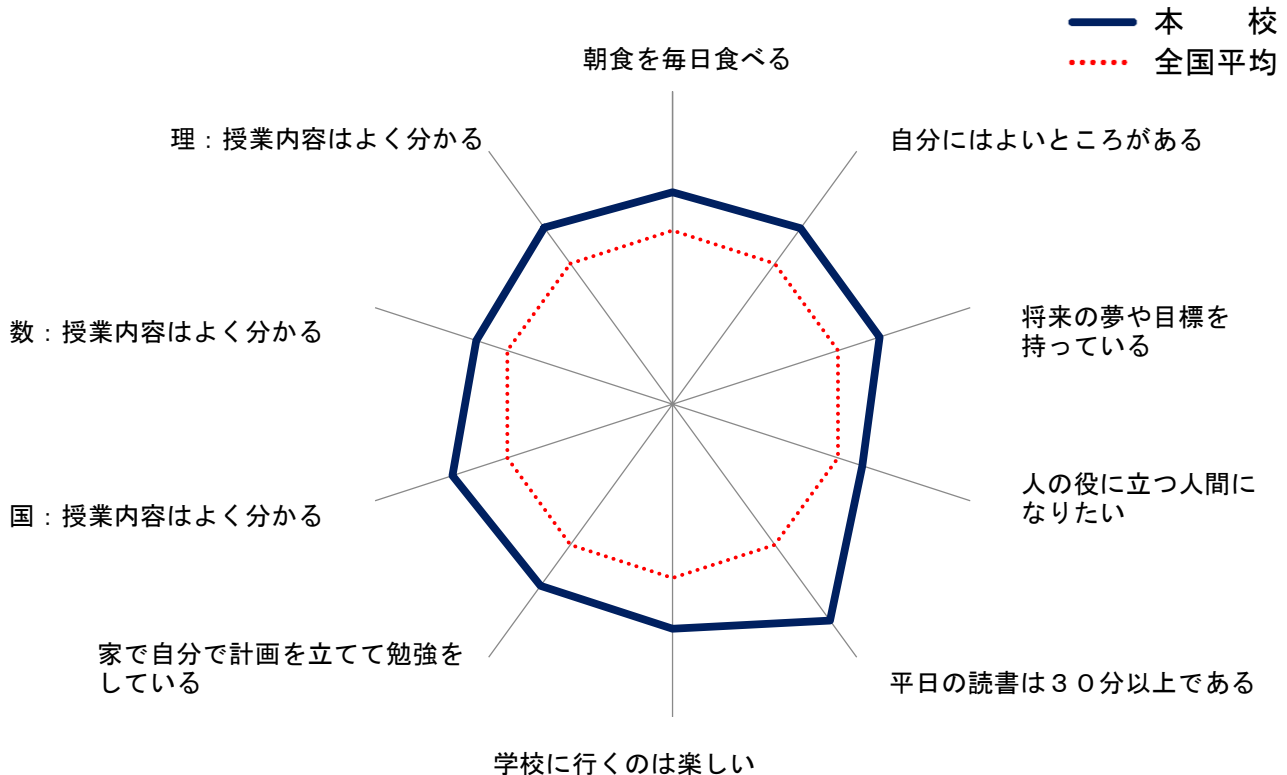
平均正答率の全国平均が49%、本校の平均が68%であることから、全体としてはよくできていました。また、標準偏差も2.6と小さく(全国平均4.1)、おおむね満足できる結果であったように思います。

本校生徒の自然現象への関心・意欲・態度は高く、領域別の正答率では、全国平均より「エネルギーを柱とする領域」が15.4ポイント、「粒子を柱とする領域」が16.7ポイント、「生命を柱とする領域」が24.5ポイント、「地球を柱とする領域」が16.3ポイント、それぞれ高く、バランスよく取れています。評価の観点で「知識・技能」、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率は、それぞれ全国平均より13.1ポイント、20.7ポイント上回っていますが、「重りに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」、「水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する」、「気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する」問題は正答率が全国平均を上回っているものの、50%を下回る結果となっていました。観察・実験は授業の中に多く組み込んでいますが、今後は、その取組を振り返り、学習した内容を活用して自然現象を科学的に考え、判断し、表現できる力をより一層身に付けることができるよう改善していきます。この改善によって、より主体的に学習に取り組む態度の醸成にもつながると考えています。

令和4年度 全国学力・学習状況調査
(学習や生活の状況) 結果

松山西中等教育学校

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



【結果の分析と改善策】

本校生徒は、おおむね基本的な生活習慣の確立ができており、一日当たりの勉強時間や読書時間、新聞を読む等の質問で全国平均以上の数値が出ていることから、望ましい家庭生活を送っている様子がうかがえます。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の質問で、肯定的な回答が全国平均より6.3ポイント高くなっています。また、地域の行事へ積極的に参加し、地域や社会をよくするためにできることを考えるなど、学校と家庭だけでなく、地域へと視野を広げて生活している生徒が多い結果となっています。これからも体験的活動や話し合い活動を充実させ、後期課程においても自己肯定感のさらなる伸長を図るとともに、地域の中心となって主体的に活動する生徒の育成に努めます。

学習面では、国語、数学、理科ともに、「授業が好き」「授業が分かりやすい」と答える生徒が多く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。学習への取組について、「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」とほとんどの生徒が答えており、課題意識をもって学習の進め方を調整できていると思います。また、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」と肯定的な回答が全国平均より12.6ポイント高くなっています。新学習指導要領で求められている多様な意見や他者を尊重し、多様な人々と協働して変化を乗り越える資質が育っていると感じています。本校では、学習にICT機器を積極的に活用している生徒も多く、授業での実践事例も蓄積されており、より効果的な活用方法の研究を進めていきます。